

令和2年度 事業報告

事業の概要

本年度の事業の概要は次の通りであります。

1、研究助成(公募)

公衆衛生の向上及び生活環境の保全を促進させる。
研究や活動を行っている個人又は団体に対し助成金を支給
今年度は下記のテーマに関連する研究を助成対象としました。

①「感染症及び外来生物」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 19件
- ・助成支給件数 15件 (100万円/件)

「アルゼンチンアリの防除における効率化のメカニズム解明」

東京農工大学 准教授 小山哲史

「北海道十勝地方における吸血性アブ類による病原体媒介リスクの解明」

帯広畜産大学 助教 菅沼啓補

「中部地方の野生動物におけるマダニ媒介性人獣共通感染原虫の分子疫学調査」

岐阜大学 准教授 正谷達膳

「ハチ感染症病原体の巣寄生性チョウ目昆虫を介した感染様式」

東京農工大学 准教授 井上真紀

「僻地における蚊の捕集トラップ用誘因装置の実用化への探索」

防衛医科大学 助教 江尻寛子

「マダニ媒介性ウイルス感染症の制圧に向けた治療薬の開発」

富山県衛生研究所 部長 谷 英樹

「千葉県に生息する野生動物における重症熱性血小板減少症候群ウイルス浸潤状況」

千葉県衛生研究所 研究員 平良雅克

「QTL-seq解析によるネッタイシマカの犬糸状虫感染抵抗性獲得メカニズムの解明」

帯広畜産大学 特任研究員 白水貴大

「特定外来生物ツマアカスズメバチが捕食により及ぼす在来生態系への生態リスク評価」

国立環境研究所 任期付研究員 坂本洋典

「上田城下の門前町における蚊類幼虫・成虫の分析データから構築するシミュレーションモデルの精度検証」

信州大学 教授 平林公男

「大型哺乳類の分布拡大がシェルツェマダニの集団構造と病原体保有率に及ぼす影響の解明」

東京大学 講師 平尾聡秀

「侵害性外来アリの防御:独創的かつ効率的な侵入防止策と定着・繁殖判定法の確立と利用」

神戸大学 客員教授 尾崎まみこ

「在来のイトダニは外来アリの新たな天敵として機能しているのか？」

千葉大学 准教授 菊池友則

「蚊媒介性寄生虫症の新規モニタリング手法開発:鳥マラリアの環境分布調査」

長崎大学 助教 宮崎真也

「長崎県におけるマダニ類の生物系統地理学的研究」

長崎大学 助教 星 友矩

②「生物機能の産業利用・工業化」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 8件
- ・助成支給件数 7件 (100万円/件)

「植物・サンゴ由来のメソスコープック構造体を用いたコロナウイルス制御法の開発」

岡山理科大学 准教授 作道章一

「抗アレルギー作用を有する細胞外多糖体産生性植物乳酸菌の探索分離研究」

広島大学 大学院生 井上裕介

「カメムシに殺虫剤抵抗性を与える腸内共生細菌を阻害する植物乳酸菌の探索研究」

広島大学 大学院生 スリジャーナ シヤキヤ

「炎症性腸疾患に対する植物乳酸菌由来の細胞外多糖体の予防改善作用」

広島大学 特任准教授 野田正文

「牛乳中ナノ粒子の生物情報伝達機能を利用した採血不要な感染症診断技術の確立と製品化」

岐阜大学 教授 猪島康雄

「もみ殻分解性糸状菌の探索」

(株)美里マッシュファーム 森永 力

「食品・化粧品素材開発を目指す麹菌固体培養によるオリーブ資源の高機能化」

岡山大学 教授 神崎 浩

2、奨学金事業

公衆衛生の向上や生活環境の保全を進める人材育成のため、国内の大学院生とアセアン諸国からの留学生に対し奨学金を支給した。

・令和2年4月より奨学生6名に月額5万円給付実施